

ネットワークアンケート ⑫

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

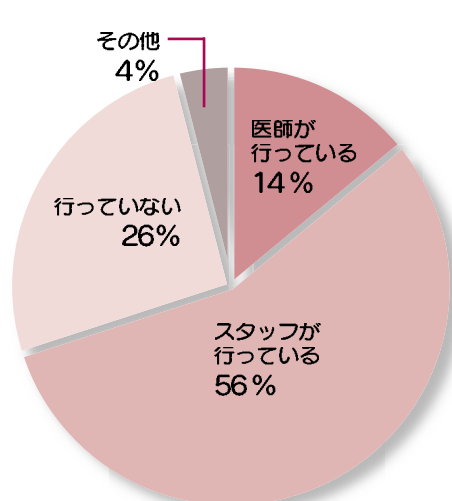
Q. 貴院では、糖尿病で受診中の患者さんに対して、 メタボリックシンドローム診断に 必要な検診を行っていますか？

一昨年に診断基準が策定されて2年が経ち、一般の方にも広く知られるようになったメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群/以下略MS)。来年4月よりMSの概念を取り入れた「特定健診・保健指導」が実施されることが決まっております。保健・健診機関はその準備に追われていますが、医療機関の状況はどうでしょうか。また、糖尿病患者さんの状況についても聞いてみました。

[回答数：医療スタッフ119(医師27、看護師36、准看護師3、管理栄養士23、薬剤師15、臨床検査技師8、理学療法士1、その他6。うち日本糖尿病療養指導士36、健康運動指導士2)、患者さんやその家族352(食事療法を行っている241、運動療法を行っている176、経口薬を服用している152、インスリン療法を行っている166)重複回答]

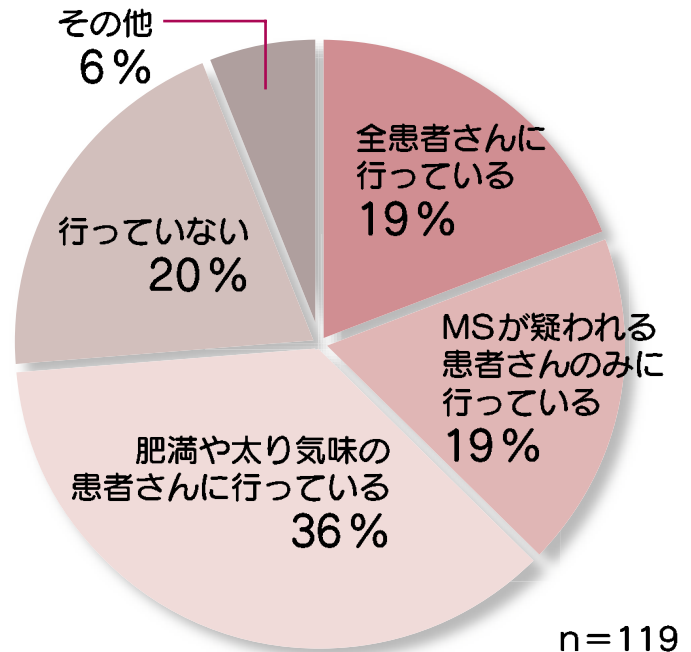
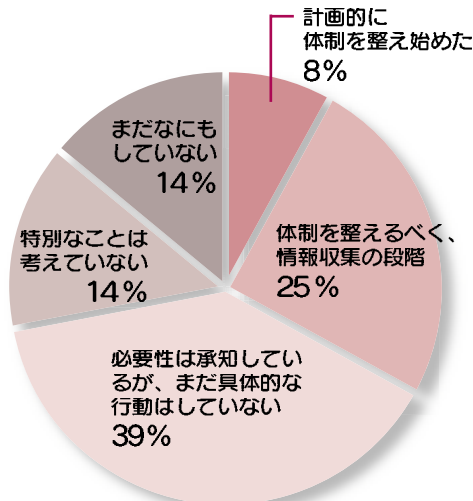
さまざまな主訴をもつ患者さんと接している医療スタッフの皆さんに、MSと関わりの深い糖尿病患者さんの中から、MSもしくは予備群である方を拾い出しているかを聞いてみたところ、全患者さんに行っている所が20%、可能性がありそうな方に限定して行っている所が半数強という結果でした。また、下のグラフにあるように、腹囲測定を行っている医

Q. 貴院では患者さんの腹囲測定を行っていますか？



療機関は全体の7割を占め、お腹まわりを測ることは一般化してきているようです。測定は、看護師さんはじめ、スタッフが測定を行っている所が多いことが見

Q. 来年4月から実施される「特定健診・保健指導」により受診される患者さんへの対応策はお考えですか？



受けられます。

来年からの「特定健診・保健指導」により、健診機関からあがってくる患者さんが増えることが予想されますが、その際の治療や指導方法についても聞いてみました。約7割の医療機関では、まだ具体的な対応策は考えておらず、体制整備が行われている所が1割弱。情報収集を行うなどし、多くの方は様子を見ていくといった状況にあるようです。実際、診察現場でMSの指導をするにも、「外来での指導に時間がかかりすぎる(医師)」「予備群という患者さんに対する保険点数の算定がわからない(管理栄養士)」というような問題や「予備群にすぎない」という意識が強く、治療に結びついていかない(医師)「少しずつ検査値が悪いだけでは病気の意識が薄く、生活習慣を改善しようとする患者さんは少ない(看護師)」など、体制や指導方法について不安を抱く方も多くみられました。